（一）　第九十號　（火曜日）　京城新聞　明治四十一年十月二十日　（日刊）

京城新聞

●葉錢整理に就て（一）

某當局者談

韓國貨幣制度の統一上舊白銅貨の處分と共に須臾も忽緒に付するを得ず而も至難の業は葉錢整理の問題とす

▲葉錢流通地方　葉錢の流通地方は慶尚南北道全羅南北道咸鏡南北道及江原道の北部之なり之れ等の地方は從前爾餘の地方の舊白銅貨に於けるが如く全く葉錢を唯一の貨幣として使用し凡百の取引一に之れによりて決濟せられたりしが諸開港の發展鐵道の開通等の爲めに其附近沿道一帶の地方は全く新貨に其地位を讓り殊に咸鏡道の如きは日露戰爭前後軍隊駐在其他の事情の爲め葉錢は漸く其勢力を失墜し來りたるを以て現時の葉錢流通地方は往時に比し大に其區域を縮少し以上各道の山間一帶及び僻遠交通不便の地方に極限せらるゝに至れり

▲葉錢價格變動の重なる理由　從來葉錢の價格常に變動して昇降極まりなかりし原因を擧ぐれば

一、人民の使用因襲久しき之れを以て唯一の貨幣と盲信し新貨の何物たるを辨別せず本位貨の如く使用せしこと

一、葉錢は運搬に貯藏に不勢不便と失費とを要すると共に他方に於て金融機關の欠乏と相俟て金融繁閑の季節に應じ資金の調節をなすことを得ず通貨の需要供給の不均衡を來たさしめたること

一、新貨の普及せざりしこと

一、從前郡守徴税時代に於ては租税の納入に葉錢を强要し相場を利用して新貨との差益の收得に腐心し葉錢の欠乏を來たさしめたること

等なり

▲葉錢整理の方針及手段　以上の如き諸種の原因によりて葉錢價格は常に變動を極め商業貿易を障害し財界に甚大なる打擊を與ふるが故に之れが整理は健實なる經濟的發展上最先の急務とす然らば如何なる方針によりて其整理を遂行す可きやは大に議論の存せし所にして之れが存廢は問題の焦點たりき抑も葉錢の劣等貨幣たる現時の經濟社會に適合す可きものにあらざるは勿論なりと雖も其使用因襲の久しきと當國人民の生活程度上少額取引の頻繁なるに顧みれば未だ漫に此る程度の貨幣の根絶を許さゝるは明白にして之れが廢止は尚早と云はさるを得ず然らは之れが通用を禁止して他に適當の小貨幣を製造せば如何とは次て起る可き問題なりき然れども元來小額貨幣の鑄造たる非常なる費用を要し現時の最少額新貨半錢の如きも鑄造費は殆ど其通用價格と同一なり況んや之れより少額なる一厘又は二厘錢の鑄造經費は其通用價格を遙に超過す可き知る可きのみ又令假に一歩を讓りて政府は貨幣整理の必要上之れ等凡ての損失を忍びて小補助貨の發行をなすとし果して其實効を奏す可きか現に葉錢流通地方の人民は尚葉錢を過信して之れを珍重す然に之れに代る可き新貨幣を提供して絶對に葉錢の使用を禁止するも其根絶を謀ること蓋し容易の業にあらざる可く若し强いて之れが禁止に努めんか忽ちに經濟界に激變を與へ恐慌を惹起するに至る可きは蓋し識者を俟て知らさるなり然らは今之れに代る可き新貨を製造して葉錢の禁止を謀らんとするも尚其實効を收め得るが爲めに三五年を籍さゝる可らず殊に一般財界發達の趨勢は少額貨幣の必要を減退せしむるを以て常規とす現時本邦の經濟狀態も亦進歩改善の機運に際會するに當り今更に少額貨幣の發行をなすか如きは一時權變の政策とするも大勢に反し其策の得たるものにあらさるを信ず要之新小貨幣の發行によりて葉錢の整理を遂行せんとせば大なる經費を費し時勢の推移に反するは勿論尚三五年の歳月を要す他に之れに優る良策なくんば止む然らされば取る可き策にあらさるなり、之れを以て政府は即ち現在の葉錢を利用して經[illegible]補助貨と與へず其本位貨的地位を奪[illegible]として通用せしむるの方策に出でたり即ち人民の蒙を啓き葉錢の現在額を減少し其通用價格を公定し通用制限を設け全く少取引の利便に供せしめ以て徐ろに整理の有終を期せんとするに外ならず

（未完）

讀者文壇

●寄宿舎の記（七）　かへで生

麗かなる日よ、雀吾が窓を掠めて去りぬ。れ早うッ、生氣ある聲の上に下にと喘つゝ、今日は休日なり、未だ懷中のどうやら暖かき日なり、さても人生は、到底現金主義の徒輩たるを免れ能はざるか。

マクトン、マクトンの呼び聲其室にも此室にも起る、彼は子ー、へーと一々應じてドン〱廊下を驅け廻る。

炊事場に可愛らしい顏や愛嬌を湛へし、八つ許りのチヨンがあり、マクドンとは即ち夫の名よ、マクトン常に生噛りの日本語を舌つたるそうに繰る、時に怒り、果ては泣くこともあれど、大抵はニコ〱して、吾等を送り又迎ふ。

一度揶揄へば、際限もなく巫山戯、その半可通の日語にて惡口する樣、往々腹の皮を撚らせらるゝこともあるなり、賢にや彼れマクトンは、吾等の慰藉者よ、吾が寄宿舎の花ぞかし（四日の夜）

・南軒

◉見覺ましきもの
夜來の梅雨夢の間に晴れて、窓外軒底く雀囀れり日光今や南山の頂を走らむとする時床を蹴つて窓を排せば先づ眼に清き、新緑の杜。

◉ヒヨツトコとド多福
ドタン、バタン、皿が飛んだ、障子が倒れた、出て行け、去る。ヤアマア、イーヤ、堪へぬ、ド多福奴、ヒヨツトコ奴、僕は翌朝笑ひ乍ら飯を食つてる此のド多福とヒヨツトコを見た。

俳句

白露吟集

十印

溢鮎や笹の小枝の古枯るゝ　湖東
巖織々水悠々として紅葉哉　可醉
海も山も變る體なし神の留主　松花
末枯や新積生の道せまし　湖東
退けられぬ古き飾や神の留主　香霧

人　田柿
毛見濟ず苗字御免の長者かな

地　松花
山里や紅葉に明けて松に暮れ

天　拇子
可内に小半合給ふ新酒かな

五月闇

河合柳葉

侯爵家の家令は濟川道恭と云つて、侯爵家譜代の臣で、大殿在世の頃から家令職に擧られ、公私の別なく、苟くも侯爵家に係ることは、總て濟川の裁斷に任せられて、大殿逝去の後は、入重用されて、内外の信用を一身に荷ふ身とはなつた、年齢は五十七で、どちらかと云へば、少し舊弊に傾き過ぎる嫌ひはあるけれど、其の舊弊な處が濟川其人の生命で一旦思うと信じた事は何處までも貫くと云ふ風で、就中御家のために害毒を流す如き事でもあれば大殿に對つてさへ形を正し色を犯して苦諫するが例で、潔く諫を用ゐらるれば、感淚を流して打喜び、自分の無禮過言の罪を叩頭して詫るは妥であつた、が、若も諫を採用されない時には、老の兩眼に赤誠の淚を流し、身命を賭して諫言するが例で、大殿も其の忠誠に愛で何時も其の諫を容れられた程である。

例も茶色木綿の紋付羽織に折目正しい小倉袴を着けて、寒暑を問はず帶の間に必ず扇子を狭み、白髪を五分刈に刈込むで、撃劍と柔術に鍛ひ上げた自慢の手を膝の上に行儀正しく載せて、儼然たる態度で坐つた樣子を見れば、眞に古武士の俤が偲るゝのである、されば爲飛候などは、現在の母たる三輪子の方よりも、此の濟川が怖しくて何を爲るにもこの濟川の眼に觸れないやう耳に入らぬやう密に事を爲るが例である。

曲つた事が大々的嫌ひで、曾て少ばかりの物を買つた時、一錢五厘の剰錢を貰ふべき所へ生憎五厘錢がなかつたゝめに、一錢五厘五毛と云ふ剰錢を出した、すると濟川は五毛の金子さへ受取るべき由縁なき金子は受取らぬと、到頭近隣で取替さして當然受取るべき一錢五厘の剰だけ受取つて歸つた事がある、一事が萬事、何をするのでも此寸法で事を處するゆゑ、侯爵家の財産の如き濟川の手に保管されるやうになつてから僅かに十七八年の内に殆んど三倍からの財産となつた。

かゝる性質であるから、自分が頂くべき給料の如きも、遠慮なく頂く代り、他家の家令どもが主家の財産を掠めんとする如き不正な慾心などゝいふものは微塵もなく、一厘半毛と雖も餘分の金子などを自由に爲たことは曾てない。

けれども月々頂く給料の中から、節儉に節儉を加へて貯蓄した財産が、既に數萬圓の多額に上つて、左も右も中流以上の生活は爲し得らるゝ財産を有して居る。

宅は赤坂北町の一丁目で、街路よりは少し奥に入つた閑靜な事には此上もない場所である。

家族は妻の時子に、長男の道輔、長女の菊野の四人、外に女中が一人居るばかり、されど長男の道輔は海軍中尉で目下出征中、長女の菊野は侯爵家の令嬢露子の御相手として共に華族女學校に通學し、宅へは歸らず、初中終侯爵家に仕へて居る。

●龍山支局設置●

今般漢江通三丁目に支局を設置し社員中村弘を特派して該地方に於ける通信營業等の事務を取扱はしめ候へば一層御愛讀之程奉願候

十月十六日　京城新聞社

●龍山支局設置●

京城新聞

再び殺戮事件に就て
裡面の魂膽なき乎

一犬虚を吠へ萬犬實を傳ふ、世には其事情に迂なるより眞相を誤解して徒に喧囂するもの尠からず、殊に韓國の如き風說の捏造に巧妙なる所に於ては屢々之に誑惑せられて空騷を爲すの事例少しとせず、今回の一進會員殺害事件の如き亦之に類するに非ざる乎、而も其事件が東京に於て先に知らるゝに至ては如何にも奇怪千萬なり、之が裡面には如何なる魂膽の包藏せられ居るやも知るべからず、裡面の魂膽ありとすれば事を好む我利者流の陰險賊惡なる小刀細工の此細に伏在せるに過ぎず、事は極て微細なる問題なり、日本人某々等及び李容九が殊更に聲を高大にして叫ぶべき大問題にあらず、苟も常識を有し多少韓國の事情に通ずるものならば殊更に東京に於て騷ぐの必要を認めざる筈なり、帝國軍隊の規律整々たる敵對行爲もなき醇樸なる良民を故なく殺害するの謂はれなし、若し夫れ我軍の行動を妨げ對敵行爲の現然たるに於ては假令一進會にせよ侍天敎徒にせよ普通の農民にせよ決して用捨せざるべし、然るに韓人中には普通の農民にして暴徒に加擔し一進會員にして暴徒と氣脈を通ずるが如き行爲をなすもの決して珍しからず、此等の輩が討伐を受るは至當なり、之を以て我軍隊を責るは甚だ心得違ひなり、李容九等の行動は聊か常軌を逸する嫌あるを以て、余輩は去る十六日の紙上に於て其心事の陋劣を誡め且つ世の誤解を招かざらんことを警告したりき、其後に於て伊藤公は之が爲に多少動かさるゝ事なきを保せず云々と述べて置きたり、果せる哉伊藤公先づ動き直に桂首相と會し寺內陸相を招き三人鼎座密議せるに至れると聞く、如何に韓人の性格に迂なりとは云へ之を大問題として有數の政治家が頭を鳩めて凝議するとは何たる事ぞや、而して更に怪むべきは之が事實の調査として軍事課員林大尉を特派するに至れる事なり、第一此一小問題を東京に於て騷ぐ事が抑も間違ひなり、京城には統監代理として曾禰副統監あり、駐劄軍司令官として長谷川大將あり、殊更に東京に於て內閣の問題とするに及ばず、事實の調査は司令官の手に於て副統監の手に於て充分に出來得る事なり、斯る一小事迄東京政府に於て直接になさしむるとならば統監代理も司令官も要せざるに非ずや、

而して此事件の眞相如何を研究するに於ては前述の如く其裡面に最も陰險極る策の蟠在するなきを期すべからず、李容九の身邊には常に事を好む日本人某々等あり、李容九の東上は將に此等陰險策を施さんが爲に非ざる乎、而して能く伊藤公の弱點に乘じて天晴れ効を奏さんとしたるに非ざる乎、李容九の立場よりすれば極て秘密にすべき事件を極て聲を大にして世に訴へるに至ては其裡面の消息も瞭々として透見せらるゝに非ずや、

由來一進會なるものは巧に僞勢を張り僅々たる會員を以て百万人と號し、其爲す所權變のみ多く到底信ず可きものに非ず、今回の殺害事件の如き決して信を措くに足らず伊藤公は此等策士の術中に陥入れるの觀あらざる乎、然らざれば事實調査員を特派する迄狼狽せざるも可なり、其殺害せられたるものが一進會員たるが爲に伊藤公が殊更に庇保するが如きは甚だ謂はれなき事なり、韓國事情に通ぜざる人は今尙ほ一進會を以て我對韓政策に補益あるが如く思へるも幷は甚だしき誤なり、今や一進會は我政策に何等の益もなく時として害ある事なきを保せず、治安の上より見れば之を解散するを以て却て利ありとするの觀なきに非ず、今更之を庇保するの必要あらんや、殺戮を事實とするも嚴正なる帝國軍隊が之を暴徒と認むべき行爲ありしとすれば之を殺戮するは當然の所置なり、敢て過失呼はりするの要あらんや、

東京電報

▲無線電信交換

十五日齋藤海軍大臣より無線電信にてスペリー提督へ左の電報を發せり

誠意を以て來訪を歡迎す國民は閣下の到着を熱心に待望す

右に對し同提督よりは謝意を表す豫定より二十四時間後れたるを遺憾とする旨答電ありたり

▲米艦の遭難

米國艦隊は十二日呂宋の北方に於て颶風に遭ひ其救命ボートを失ひ砲手一名溺死し其他甲板より掃はれしもの多かりしも救助せられ後死亡せし者一名ありこれがため橫濱入港遲延せしものなり（以上十七日發）

▲米艦隊の入港

今朝九時米國廻航艦隊十六隻コンチチカットを先頭として重複縱陣を張り入港す齋藤海軍大臣は旗艦三笠の艦載水雷艇にて日本政府を代表し公式訪問をなせり

▲米艦の行衛不明

米國廻航艦隊に屬する通報艦ヤングトンは暴風の際より行衛不明となり今尙入港せず多分沈沒したるならん

▲豫算會議終了

今日開かれたる閣議にて豫算會議を結了せり

▲競馬聯合會の決議

全國競馬聯合大會は馬券禁止を以て財產權を蹂躙し馬匹改良の前途を阻害するものとし善後の方法を政府に要求すべしとの決議をなせり

▲野津元帥の薨去

元帥野津道貫伯は今朝薨去せらる

▲榎本子の危篤

榎本子爵は昨日來病氣危篤に陷れり（以上十八日發）

▲米艦隊將校入京

米國廻航艦隊司令長官以下今朝入京す歡迎者雲霞の如く沿道は人垣を築き萬歲聲裡に司令長官以下八名は芝離宮に其他は帝國ホテルに入れり

▲通報艦無事

行衛不明なりし米國通報艦ヤングトンは昨夜橫濱に入れり暴風の際損害を受け海上を漂泊し居りし爲め延着せりと

▲野津元帥の昇位

野津元帥は正二位に叙せらる（特旨を以て位一級を進らる）（以上十九日發）

雜報

●十七日の阪谷男爵

阪谷男爵には西島師團長其他の人々と共に曾禰副統監帶同午前十一時昌德宮に於て韓皇に謁見せられたり

經濟協會の歡迎

午後十二時三十分阪谷男には隨行員諸氏を率ひて日本人俱樂部に於ける韓國經濟協會の歡迎會に臨まる當日の出席者は石塚參與官木內次官荒井次官香坂院長永濱參與官田原次官鈴木司稅局長三浦理事官熊谷民長中村會頭其他重なる會員八十名餘及び韓實業家白完赫、白寅基其他の五氏なり午後一時食堂の開かるゝや主客各食卓に就き歡笑の裡に午餐を喫し正に了らんとする時當日の司會者木內次官は起て左の意味の歡迎の辭を述べられたり

阪谷男爵閣下、閣下は過る二十五年間我大藏省に奉職せられ殊に大藏大臣として至難なる戰後財政經濟の爲にも盡されたるを以て本年一月桂冠の後暫く閑散の身となられ、同時に韓國の財政料理の任に當られ本年四月歐米漫遊の途に登ぼられ諸國の政治、財政、經濟の事情を視察せられて今回歸朝の途當地に立寄らるゝ此機會に於て我經濟協會が閣下を歡迎するは頗る光榮とするところにして閣下も亦余所ならぬ經濟協會の歡迎を喜ばるゝならんと信ず、閣下願はくば馳走の薄きを以て歡迎の意の切なるを捨て玉はざらんことを、且つ願はくは閣下が巡遊の間に得られたる新智識の分與を爲し玉はんことを云々

了つて一同起て杯を擧げ男爵の健康を祝す次に阪谷男は起て左の意味の謝辭を述べ談話を試みられたり

閣下並に諸君、本日は御丁寧なる御招きに預り感謝の至りに堪ねず、殊に本協會を代表して厚き御言葉を玉はりたる木內次官は予の同窓の友人にして其述べられたる御言葉に對しては敢て當るところにあらずと雖も只何となく愉快に感ずる次第なり、予は本年四月東京を發し殆んど六ケ月間歐米の地を巡りたれども其觀察は極めて皮相にして到底諸君の前に御披露申すべき程の者にあらざるなり、予が行きたる際は米國は不景氣なりしの事にてシカゴのアモー製肉場及びブルマン車輛製造所すら殆んど休業の姿ならんか、ルーズベルト大統領選擧前の爲なりし、併し之は大統領其地の諸政治家にも會談したるが皆々日本に對し親交の意を有し居れり、英國及び其他の國々にては皇帝大統領各政治家等に謁會したるが之亦日本に對し何れも親交の意を有せざるなし土耳古にては政治上の動亂わりし際なりしを以て遠慮して皇帝にも謁見せず政治家にも會談せざりし、新聞紙などは土耳古が新たに憲法を採用したるが如く傳ふれども實は同國の憲法は三十年以前に一度布かれて居るものを故ありて中止されありしが本年中止を解くこととなりたるなり、露國にては總理大臣ストリピン氏其他に會談せしが何れも大國風の政治家と見受けたり、歸路よりはシベリヤ鐵道にてハルビンに出で營口、旅順、大連を經て安東縣より新義州、平壤、鎭南浦を經て御當地へ來りたるなり、扨韓國の事に就て一言せんに韓國の人々も亦在留邦人中の或人々も之迄內地に來られ予に告ぐるに韓國は貧乏なりとの言を以てせられたるを以て予も何となく韓國は貧乏なりと思ふを免かれざりしが今度新義州其他の地を實際に視察するに成程樵山も在れども亦相當に樹木も立ち居るを見受け且つ土地の極めて豐饒なるを見て予が以前に貧乏なりと考へたるの誤なることを發見したり、但し韓人をして經濟的に働かしめんとすれば政治法律を良くすることの最も大切なるは勿論の事なるがソレと同時に經濟的慾望を有せしめざるべからず、彼等が今日の如く單純なる衣食住に甘んずることは決して彼等をして經濟的發展をなさしむる所以にあらざるなり、願はくは日韓人共に相協力して政治に經濟に實業に盡力せられなば庶幾は經濟的發展を遂ぐることに於て必ず成功するならんと信ず、終りに臨み本協會々員諸君並びに御列席の韓實業家諸君に深く感謝の意を表す云々

了つて別席に移り一同コーヒーを採り男爵を圍繞して歡談に時を移し午後三時無事散會したり

景福宮觀覽

經濟協會を辭せられたる男爵は荒井、鈴木兩氏の案內にて景福宮に赴き同宮殿を仔細に觀覽せられたり

一銀社宅に於て

午後七時より男爵には第一銀行社宅に於て催されたる晩餐會に臨まれ木村、三島、竹山其他の諸氏と晩餐を共にせられたり、

●十八日の阪谷男爵

十八日午前男爵には暇乞の爲曾禰副統監長谷川大將其他を訪問せられ午前十二時よりソンタク邸に催されたる李總理大臣の午餐會に臨まれたり、當日の出席者は主賓男爵の外日本側よりは長谷川大將石塚參與官荒井、木內、岡、倉富、俵の各參與官其他韓國側よりは主人李總理の外各部大臣等にして午餐を共にし主客の間に挨拶あり互に健康を祝して歡笑の裡に午後二時半散會したり

男爵の下仁

李總理の午餐會を了ると同時に男爵には下仁の爲馬車を驅りて南大門停車場へ着され別室にて少憩の後一の瀨、矢野事務官等の案內により特別車に乘じ木內次官永濱關稅總長石川技師長及び隨行の諸氏と共に下仁せられたり

仁川の半日

男爵には一行と共に午後三時廿八分着仁信夫理事官富田民長穎原會頭宮木稅關長各民會議員其他有志家の出迎を受け宮木稅關長の案內により稅關に入り暫時休憩の後諸氏と打連れて埋築地を一覽せられ、ソレより信夫理事官の先導によりて市中を巡覽し八阪公園及び各國居留地公園を巡覽せられ次いで理事廳に入りて少憩の後午後五時三十分仁川經濟會の發會式に臨まれたり

仁川經濟會に於て

仁川經濟協會は本日發會式を擧ぐ出席者五十餘名始めに穎原氏の發會の辭あり次に男爵には穎原幹事の請に因り左の意味なる談話を試みらる

閣下並に諸君、本日は幸にも本協會の發會式に列するの光榮を得て大に感謝の念に堪ねません、御依賴により何か御話を致すべき筈なれども格別是と云ふ話も有しませんが只一つ申上げて置たきは歐羅巴より東洋へ來ると彼我の間に生活の程度の大に異なつて居ることであります、是は何か源因をなしたるかと云へばつまり歐米人と吾人東洋人とが違がある故と思ます、東洋の儉約とは爪に火を燈す主義の消極的なるものなり、ソレに反して西洋人の儉約とは萬事を經濟的に有功に働かしむる積極的なるものなり、國家も個人も消極にあては決して富裕となり得べきものにあらず願はくは經濟會の諸君は此意味に於て世人を指導し日本內地の人々に因つて漸行する能はざる儉約の主義をも良く呑込み良く實行して益々經濟の發展に盡されんことを、終りに臨み本協會の前途の隆盛ならんことを希望し謹て諸君の健康を祈る云々

夫より木內次官永濱關稅總長及び蜂岸本社長各一場の祝辭を述べ了つて男爵には午後六時三十分より仁川俱樂部に於ける仁川官民の歡迎會に臨席せらる

官民歡迎會に於て

當夜の歡迎會出席者は主賓男爵を始め陪賓諸氏の外仁川の紳士五十餘名にして宴酣なるや富田民長一同を代表して男爵に向ひ熱誠なる歡迎の辭を述べ了つて一同と共にシャンピンの杯を擧げて阪谷男の萬歲を三唱す、次で男は徐ろに立ち同じく杯を擧げ仁川民團の万歲を三唱せられ後穎原氏の卓上演說あり各歡を盡して午後七時四十分散會したり、散會後男爵には仁川諸紳士多數の見送りを受け木內、石川、永濱其他の諸氏と共に特別列車に乘じ午後十時無事京城に歸り旅館天眞樓に入られたり

●阪谷男の出發

阪谷男は十九日午前八時三十分の列車にて歸東の途に就かれたり見送人は曾禰副統監長谷川大將李首相各大臣各次官日韓重なる人五百餘名なり尙男爵は三浪津より馬山を視察せられ十九日は同地に一泊せらるゝ由

●東洋拓殖株式募集規程

今般東洋拓殖會社の株式募集につき左の如く規定せられたり

一、同會社の資本は一千万圓にして株式總數を二十萬株とし一株の金額を五十圓とす

二、韓國政府は田五千七百町步畑五千七百町步を同會社に出資し其價格三百萬圓に相當する六萬株を引受くるものとす

三、今回募集すべき株式數は二十萬株の內韓國政府引受濟株六萬圓を除きたる十四萬株とす但此內一千株を控除し其殘十三万九千株を公衆より募集するものとす

四、同會社の株式申込は日韓兩國人に限るものとす

五、同會社定款は明治四十一年十月八日日本政府の認可を隆熙二年十月八日韓國政府の認可を經たり

六、日韓兩國の東洋拓殖株式會社法及同會社定款は同事務所並に株式取扱店に備置くを以て申込人は之に就いて閱覽せらるべし尙同會社定款は十月十日の日本官報及十月十日の韓國官報に其全部の揭載あり

七、株式申込期限は明治四十一年十一月一日より同年同月十日迄とす

八、株式申込人は株式申込書に證據金一株につき二圓五十錢を添へて各取扱店の內に申込まるべし株式申込書は郵便に附する場合には必ず書留郵便に限るべし申込期限內に到達せざる株式申込書は之を受理せず

九、株式申込書並に印鑑用紙は各取扱店に備へ置くにつき申込書は同店に就き受取らるべし

十、申込株數需用額に超過したるときは申込に對し案分比例を以て募入額を定め按分の結果端數を生じたる場合には抽籤其他便宜の方法を以て署理すべし

十一、證據金は第一回拂込に達するまでは之を第一回拂込金に充つるため預り置くものとす

十二、募入外れのものには其取扱店を經て其旨を通知し申込書と共に證據金を返戾すべし

十三、各株式の第一回拂込金は十二圓五十錢とす委員長の通知を得たるときは期限內に其取扱店へ拂込まるべし若し其拂込を爲さゞるため株主たるの權利を失ひたるときは其既に拂込みたる證據金は之を還附せず

●拓殖株式募集

東洋拓殖會社の株式募集は近日當地に於ても開始せらるべしと云ふ、聞くところによれば內地に於ては同株に對する前景氣到て宜敷との事なるが當地に於ては如何あるべき

●●運送新築●●

內國通運會社當地支店事務所は地を南大門停車場前にトし先頃中より新築中なりしが今回全く落成したるを以て業務の取扱を舊店舖より新店舖に移したる由なり

●中島參謀の視察

軍司令部中島參謀は三十日平安南北道方面の視察の爲め出發す

●村瀨營業課長の歸任

鐵道管理局營業課長村瀨鎌次郎氏は二十日歸任せり

●多賀書記官の歸任

在春川の江原書記官多賀高延氏は此程來上京中の所二十一日歸任すべしと

●廣田囑託の歸任

曩きに學事視察の爲西海岸地方へ出張中なりし同囑託は十七日歸任せり

●露副領事の訪問

京城駐在露國副領事ケルベル氏は昨日午前十一時統監府を訪問せり

公人私人

▲石塚英藏氏（南滿洲鐵道會社事務官）十七日來京天眞樓

▲田沖三甫氏（參謀本部附砲兵中佐）十八日來京浦尾旅館

▲松尾彌五郎氏（二十三銀行大分支店長）十八日來京山本旅館

▲安達峰一郎氏（在佛國大使館參事官）十八日來京巴城館

▲竹內卷太郎氏（慶尙北道書記官）同上

▲金谷充氏（咸南道書記官）浦尾旅館

●近事片々

▲大詔● 陛下謹で之を拜誦し　聖旨の存する所を拜念すれば恐懼措く所を知らざる也

▲近來● 帝國々民戰捷に狎れたる結果忠慢の念兆し勤儉堅忍の風廢れ浮華輕佻に流る

▲殊に● 上流の風紀紊る從て漸次下に其惡風を及ぼす此際　聖詔の喚發は難有も畏し

▲國民● 上下荒怠に傾かんとするを至尊は痛く軫念を勞せられ給ふ唯々感泣の外なし

▲勤儉● 產を治め華を去り實に就くは之れ積極進取の大方針國光の發揚全く茲にあり

▲敎育● 勅語軍人勅諭に加るに此大詔あり帝國民の進むべき爲すべき業務炳乎瞭然也

▲帝國● 民は唯　聖旨のある所を格守して怠らざれば國運の發展は期して俟つ可き也

▲宋秉● 畯の評判近來甚だ宜しからず韓人等の寄る處必ず攻撃あり眞に四面楚歌の聲

▲言說● を聞くに何れも宋氏が財を集る手段の惡辣を謂はざるなし聞だに嘔吐を催す

▲李容● 翊の孫の第一銀行の件或は商業會議所の積金云々と韓人等頻に宋氏を罵倒す

▲兎● 角現今の宋氏は國民より呪はれつゝあり其肉を喰ふも嫌らずと吹る者も有と

▲國民● の怨望は殆ど宋氏に集れるが如き觀ありと事實ならば余り寢心快からざるべし

▲完用● 君も怨まれて居るが宋君程ではなし併し高枕安臥の勇はなからんと言囃せり

▲間島● に於て日本憲兵と淸兵と衝突し互に死傷ありとの報は事實ならば甚だ面倒也

▲淸領● には韓國暴徒の逃遁せるもの澤山居ると聞く此等暴徒は全く此件に無關係乎

▲淸兵● と我憲兵の衝突は大事に至らざるべけれど國交は往々微細の事より面倒起る

▲何れ● にしても間島問題は早く解決せざれば今後幾多の面倒を惹起し來らん乎

▲伊公● の漢詩は御自慢なれども俳句の如き如何と思ひしに矢張多少ヌタくられる也

▲鐵堤● に月を賞して月獨り秋や占むらん隅田川と中々味をやる却て詩よりも上手也

▲英佛● 露三國協定調ひ列國會議を開くに至るべし勃の獨立墺の合併は如何に決す乎

▲露國● のダーダネルス海峽問題或は甘く行くかも知れぬ列國會議は隨分面白からん

▲クロ● パトキン氏の日露戰史は面白く書かれたり黑鳩將軍は文士として却て價あり

▲戰史● として其說く所比較的公平なり故に露國當時の內情は遺憾なく暴露せらる也

●赤十字總會次第

韓國總委員部に於て決定したる總會次第書は左の如し

一、十月三十一日(土曜日)午後一時慶熙宮(西大門内)に於て第一回總會を擧行す
一、當日出席社員は社員章佩用有功章併佩のこと
一、開會　爆竹を以て報す
一、招待員　社員一同式場に整列
一、社長代理委員總長代理式壇に臨む
一、委員總長代理　總裁兩殿下御眞影の覆を撤す
一、奏樂　君ヶ代　一同敬禮
一、委員總長代理開會を宣告す
一、總裁殿下御諭旨
一、委員總長代理奉答
一、社長代理祝詞
一、來賓祝詞
一、委員總長代理有功章及特別社員章授與の旨を宣告す
一、總委員部の專務委員受章者人名を呼上く
一、社長代理有功章特別社員章授與
一、委員總長代理賞記推薦狀を交付す
一、赤十字社萬歲を三唱すること
一、委員總長代理閉會を宣告す
一、委員總長代理　總裁兩殿下御眞影の覆をなす
一、一同敬禮

右畢て模擬店餘興等開始烟花を以て報す

一、模擬店　構内に設置しウドン、ソバ、シルコ、オデン、壽司、朝鮮ソバ、烟草、菓子、パン、茶、日本酒、ビールの各店あり
一、私設郵便局　會場内に私設郵便局及繪葉書發賣店を設け出席社員の求めに應じ紀念スタンプを押捺し發送取扱をもなす
一、救護演習　當日駐劄軍隊の一部は特に出席社員の爲め救護演習等をなす筈
一、餘興　樂隊奏樂、蓄音器、演藝等
一、社員に限り十一月一日(一日間)其筋の許可を得て特に昌德宮内秘苑並景福宮を拜觀するの光榮を得しむ

注意

一、出席社員は社員章、有功章佩用の上必ず開會前に會場に參列すること
一、出席社員は興化門より入り掛員に就き紀念品報告書及秘苑拜觀券等の交付を受け式場に入ること
一、出席社員の爲め臨時救護所の設けあり

●大韓日報演藝會

既報の如く大韓日報改刊二週年自祝演藝會は去る十六日より十八日に亘り開催せられたるが三日間とも非常の盛況にて既に豫定の午後五時には招待客は場内に充滿し滿場爪も立たぬ程の雜沓さ加減早や六時頃に至りては入場謝絶の札を掲げしにも拘はらず如何にかして入らんとアセる者木戸口に蝟集し「入れろ」「何故入れぬか」との喧騷に今にも小屋をも叩き壞さん許りの凄まじき勢なりしが何れも社員の穩便なる説得により漸く引き込へすもの多數にて爲めに豫定の二日間の開催を一日丈日延べせし次第なる由サテ開會の順序は最初同社の戸叶主幹簡單なる挨拶をなし次で山道亞川氏開催の辭を述べソレより直ちに番組の演藝に取り掛りしが藝妓は何れも一等料理店の腕利揃ひ花月井門瀞華にしきの四樓にて各々得意の出し物に必死の力を振つて美事觀客の喝采を拍せしが殊に初日の花月連の出し物たる明烏の一くさりは例の丸辰老妓の三味の許に何れも見事に遣つて除けしはナカナカ感心な腕前なり次に招待券を有するものには濁酒一瓶宛折詰一個を進呈し尚ほ家族共の入場をも許せし等待遇上些の遺算なかりしは喜ぶべきことゝいふべし

●奏樂堂落成式

京城樂友會に於て南山公園に建設したる奏樂堂は既記の如く十七日午後二時より落成式を擧行したり熊谷會長一場の挨拶をなし夫より會員建設に關する報告等ありて陸軍樂隊及び韓國樂隊交々演奏をなしたるは頗る盛會なりし尚ほ當日來賓に紀念繪葉書を配付したりと云ふ

●大阪商船の增船

追々新穀の出廻期となしたれば大阪商船會社に於ては既報の如く安平丸基隆丸の二隻を西岸航路船に充つることゝなり安平は本月基隆丸は同二十三日仁川入港の豫定なりと

●龍山大豆の手合

龍山新大豆百叺は昨日仁川に廻荷されたるがこは同大豆の新物出廻の初めにして庄野商店に於て六圓四十錢に手合ありたりと

●警務局警視廳員の登山

內部警務局及び警視廳の日韓人官吏一同は十七日北漢山に登りたるが一行は松井局長、青木書記官以下六十三名午前七時獨立門附近に集合し義州街道より進み一日の清遊を盡し午後六時歸着せしと

●京城評論

漢城言論界の旺盛今や既に其の極に達しつゝあるの際標題の如き評論雜誌は去る十五日を以て呱々の聲を擧げぬ躰裁は強ちに記者の感服する所にあらざるも文氣崢嶸筆鋒大膽敢て忌憚なく所信を披瀝し時弊を憤慨する豪放の氣象は確かに賞嘆の値ありといふべし內容『論説』『雜纂』『時論』『雜報』『實業材料』等にして殊に論説欄に於ける「不可解」及「與宋秉畯書」「當局者の參考に供す」の三項は文辭熱烈翊氣當るべからざるものあり(定價十五錢京城大和町一京城評論社發行)

●五雲會番組

十一月一日午後一時より大和町三丁目梅の家に於て開催する同會員の素謠會番組は左の如し

龍田　田中玄氏　小竹氏
寶盛　鮎貝氏　和田氏　ツ野田氏
葵上　黒澤氏　ミ錦島氏　熊谷氏　大三浦氏
鈴木　增戸氏　ツ松田氏　田中實氏
善知鳥　香阪氏　母岡田氏　吉住氏

●蜻蛉の天婦羅

旭町三丁目トンボの東京天ふらは開いたばかりでも食氣黨の喝采を鳴らしうるなるか其揚げ方が新橋にて有名なる橋善式で夫れに種々の料理鰻蒲燒すき燒も出來飯屋の格で散財をかけぬが此トンボの家憲で色氣なしに親切の扱ひ振り東京の橋善の夫れに勝るとも劣らぬと來てるから堪つたものでないと飛び込んで喰つて來た人の噂さ

商店覗き

▲四ケ所洋物店▼

店の構へは當世風にて商品飾り付けの工合も極めて巧みなる所から客足至つて繁く從つて現今にては泥峴筋の洋物商中三本の指に折らるゝ迄に至れり主人は四ケ所爲五郎氏鬢はあれども却々に腰が低くソレに機を見ること敏に客を回らすこと巧みなるを以て常に他に率先して人氣に投ずる品物を輸入し而も未だ曾て誤まりし事なしと云ふ手際は流石は多年商賣人として苦勞を重ねし丈けの印あり近頃嶄新なる新柄續々着したる所から「非常勉強特別廉價を以て景品に換へ聊か平素の御厚情に酬ひん覺悟に御座候」といふ文句の散り札を配り居れるが定めて盛況を呈することなるべし尚ほ近頃諸官衙用達部の擴張を爲す由場所は本町二丁目なり

▲辻屋商店▼

西洋雜貨店としての最新式の建物は何といつても此の店の右に出るものはなかるべし本店は本町二丁目元の店舖は今では支店となり居れり要するに歐米の雜貨及び食料品何品として漏ずなく未だ曾て顧客をして空しく手を懐にして立ち歸へらしめしことなしといふ第一場所柄が持つて來いにて加ふるに堂々たる本支店の店構へは二六時中客を見ざるなく定めて一日の水揚高とても少々にはあらざるべし主人は松浦源治氏年齡漸く不惑如才のない面白き人物なり

▲山邑酒店▼

攝州灘の山邑とさへいへば酒造業として其の名を知らざるものなし當地南山町に支店を設けしは昨年の春頃なりと覺ゆしが兎も角地盤の牢乎として動かすべからざると商賣振りの大膽とは瞬く間に當地に於ける販路を擴張し現今にては其の販賣高は城中の第一位を占むるに至れり殊に櫻正宗は同店の逸品にして而も價格比較的廉く專ら上戸連の賞翫措く能はざる所なりとか

●腸窒扶斯

京城南山町三丁目八十八番戸小林テル(十七)は十七日和將台三十七番戸吉村つね(十七)は十七日大和町三丁目三十六番戸藤村榮太(四十)は十七日米倉町番外中川良治(二十)は十八日何れも腸窒扶斯に罹り大韓病院に送らる

巷のいろく

●醉漢ヨボを撲る

十六日午後三時半頃大山林洞六十六統李順元(三十)草洞十一統金東赫(二十)の醉漢亂暴にも后洞六十統金鐘大(三十)なるものゝ宅に押し入り何の謂れなくして金を撲り直ちに其筋の引致する處となりたるが酒狂の上の事とて嚴重に説諭されて引き下りたり

●醉つ拂ひヨボの僞巡査

十六日午後七時頃銅峴分署の巡査が巡廻中壯洞に於てヨボの醉漢一名のヨボを摑まへて警官風を吹かし居るより直樣本署に引致の上取調べたる處此者は后洞統戸不詳金元春(三十)と云ふ奴にて結局酒からの惡戯と知れたれば將來を戒めて放還したり

●仲裁からの喧嘩

十六日午後九時頃南部薫洞にて詩谷二十八統二戸金道汝(三十)が一名のヨボと撲り合ひをなし居る所を折柄通りかゝりたる草洞統戸不詳李聖道(三十)裴洞李判書根皓の雇人崔春明(二十)及び金化善(四十)の三人が仲裁に入りたりしに道汝は却て此等三人を相手取り狂ひかゝりたるより端なくも大立廻りを演じたるが間もなく其筋の聞き知る處となり一同引致の上取調べたる所右の次第と明り各々説諭を加へて引取らしめたり

●過つて河中に落つ

一昨日午後七時頃某官吏が南部長橋を通り掛らんとする際何者とは知らず陶然と水音高く河中に落ち込みたる模樣なるより急ぎ驅せ付けて引き上げしが這は咸鏡北道青部中山面趙榮元(五八)といふものにて同人は當夜道を迷ひて愛の所に來り過ちて河中に顚落せしものと知れしが其際同人は足部に擦過傷を負ひたりと

●塵捨て箱が走る

一昨々日午前四時頃銅峴分署詰巡査が弘門洞巡廻中怪しくも一ツの大きな箱が走つて行くより怪しからぬ譯と追かけ見しに此奴は中部惠橋朴龍西(三三)といふものにて當夜本町方面より塵箱を竊んで逃げ行く途中と明り其場より引致されたり

●靴ドロボ、

南部居住韓成浩(一六)なるもの此の間より繁々と南部竹洞質店植田方へ入質に來るより植田方にては不審がり密に銅峴分署に密告し置きたる處一昨々日午後七時頃成浩は中部西小門洞李濟儀(一六)の二名と又もや洋靴韓入靴などを質入れに來たりし處を成浩一名だけ捕へて引致したるが其の自白する處によれば赤門通り韓人店より掻つ攫つたものにて此の外澤山の犯罪あるやうなるより目下取調中なり

●壽町の賭博

十六日午前一時頃壽町二丁目五番地荷馬車業中尾房太郎(三八)方にて五名のもの車坐になり盛んに賭博を爲し居る所を折柄巡回の巡査に踏み込まれ一同珠數繋ぎとなりて引致されたり

●啞者の窃盜

十八日午後二時三十分頃南山町一丁目七十三番地清原孝次郎方に一人の啞者忍び入り折柄の留守を見すまし何物か窃取せんと家中を覗び居る所を隣人某の爲に發見されしかば椽の下に身を潜めたりしも終に引き出されたりしが其の際曲者は既に鉛筆十本を窃取し居れりといふ

●本町座の替り狂言

同座本晩の替り狂言は「鬼士官」にして重なる役割は左の如し

磯部六郎(稻葉)同父勘齋(石堂)藝妓秀勇(一非)妹磯子(堀江)紳士大川(常盤)熊田軍醫(吉井)鬼士官村田(田宮)松村海軍少佐(小泉)鳥海海軍中將(青山)磯部一夫(秋山)鳥海夫人種子(坂本)書生高田(櫻木)車夫仙吉(喜多)藝妓高砂(島村)鳥海令孃智惠子(酒井)

落語

一ツ穴

（七）　柳屋圓喬口演

權「白痴ア云やアがれ貴樣と合乘が出來るもんかョー主人が歸れと云ふんだから歸つたら好いだらう權助……（回顧つて）オイ權助…何處へ居なく爲ちまやアがつた、樣ア見やアがれ生意氣な事を云つたつて人込へ行くと離れて仕舞やアがる樣ア見やアがれ白痴奴ッ

權「乃公ア事白痴だと惡口てやアがる……離れたぢやア無へぞ屋臺の下に隱れて居るのを知んねへだ……

權「乃公ア何時でもハア兩國の廣ッけへ此處へ來るとハア胡麻化されるから今日は乃公の方で先イまいて遣つたゞ此狸野郎……アレー見ろ野郎歩びだしやアがつた乃公後から…尾て行くぞアレ本所の屋敷へ行くのに稀獲らねへで左りへ曲つたナ野郎怪しいぞと權助跡から尾て參るのを知りませんから權那は那れから大橋の横町を曲り藝者新道を曲ると角から二軒目の小粋な家へ這入りました

權「頭アハア隱して尻隱さずちうのは此事だア、此家へ這入たこゝに下駄ある…野郎…何を爲るだか一ッ見て遣るべい家へ這入る事は出來ねへがハア何處から見べいと横町を曲ると庭の黑塀に節穴が有ました

權「此穴節から見てやるべい…乃公を卷やアがつて如斯家へ來アがつて……（覗く）ア野郎高慢氣な顏を爲て蒲團の上に座つて居やアがる……此女に欺されて居るんだ贅澤な身裝を爲て居るなア……口を小ちやく見せべいと思やアがつて此狸やアマア……ツみ……だが然し好い別嬪だなア……何だ昨夜も來たらうと思つて十時迄待て居たヨ白痴ア吐くなョ乃公ア來てへが女房アが八釜敷くつて手に負へねへ……戯言云へ……久く來ねへ……浮氣爲ちやア無益だョ何んだ……此處へ來るとれ內儀さアの事を惡く云つたつて家へ歸るさ元木に增る裏木無しとかで可愛がるだらう……アレ見や楊枝で頰ぺたア突かれて居やアがる白痴野郎……何んか云つてらアなんだ……

擅「和女然んなことを云ふけれど那女の面ア見ると飯を喰ふのも嫌だ

權「大變な言を吐やアがる道理で乃公ア方へ冷飯斗り澤山ア廻ると思つたが是だもの

女「今日は一人で御座つたか

擅「ナニ供を連れて來たんだが迷子れやアがつた

女「子供ですか

擅「ナニ大人だよ

女「嫌な大きな身体を爲て何んな人

擅「過日那の深川の不動樣へ往た時永代でれ前に逢たら和女は供が居るので佐賀町の方へ曲つて仕舞つたが那の時供を爲て背の高い色の黑い奴で包みを背負て歩いてたら那奴だね

●新聞料　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金四十錢▲三ヶ月前金壹圓貳拾錢▲郵稅一ヶ月拾錢

●廣告料　▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢

發行兼編輯人　秋山忠三郎

印刷人　高木久馬太

發行所　京城西署西小門洞　京城新報社